

## 2022年度第5回 外洋常任委員会 議事録

1. 開催日；2023年2月24日（金）18:00～19:15

2. 会議の場所及び方法：会場と ZOOM による WEB 形式併用

会場：JSAF 事務局（JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階）

出席者：（理事）

中澤信夫 副会長、中村隆夫副会長、大村雅一 常務理事、中村和哉 理事、  
鈴木祥子 理事、石川彰 理事、井上貴支 理事、岩瀬喜貞 理事、沼田浩行 理事、  
船澤泰隆 理事

（委員会関係）

川合紀行 外洋計測委員長、平出篤志 外洋安全委員長、  
坂口城治 通信委員長、三浦伸郎 レースマネジメント委員会外洋小委員長  
日下部大蔵 ルール委員会外洋規則小委員会委員長  
坂谷定生 参与、

（事務局）

鈴木保夫 外洋事務局長、  
小山悟 外洋艇登録事務局長

（敬称略）

記録者 鈴木保夫

大村常務理事の進行で 18:00 より中澤副会長の開催の挨拶で開始した。

議題は審議事項として、レース運営規則改正が追加になったことが説明された。

議事

審議事項

（1）レース運営規則改正について

大村常務より、レース運営規則の第2章第1条の変更案が説明された。

大村：第1条（主催・共同主催・公認）の1項「外洋全日本選手権（ジャパンカップ）は連盟が主催する。」を以下に改正したい。

第1条（主催・共同主催・公認）

（1）外洋艇全日本選手権（ジャパンカップ）

（2）オリンピック種目全日本大会もしくは World Sailing がオリンピック種目を目指している種目の全日本大会。

改正することによって、外洋ダブルスを JSAF が主催することの根拠にしたい。  
三浦：レース運営規則はレースマネジメント委員会が管理しているので、本日の  
外洋常任委員会で改正することに決まれば、3月4日のレースマネジメント委  
員会に提出して検討してもらうことになる。

なお、JSAF 外洋主催のレースが増えても、専門委員会は運営をする委員会  
ではなく、情報を提供することが役割であることを認識してもらいたい。

大村：了解した。他に意見がないので、この案で三浦委員長からレースマネジメ  
ント委員会に提出して、検討してもらい異議がなければレースマネジメント委  
員会から理事会に提出してもらうことになる。

## 報告事項

### (1) 報告事項

#### ・外洋ダブルス日本選手権 2023 について

中村和哉：レース公示を作成中であるが、1艇から問い合わせがある。

日下部：公示は確認ができれば UP できる状況。

三浦：フィニッシュ側のラグーナの会議室を押さえれば問題がない状況。

#### ・小笠原レース 2023 について

大村：JOSA との共同主催で申請中。

関東の外洋団体が協力となっている。26日、27日に事前説明会をする。

伴走艇があるので、ラリークラスを設定する。

### (2) 各団体からの意見について（各水域からの報告）

#### ・理事選出方法の改正案と加盟団体規程について

##### （北海道・東北水域）

石川：女性の候補者がいない。北海道、いわきでは会員に女性がいない。

会員がいないので、役員に女性を推すことが難しい。

加盟団体規程案の会員数20人の基準については既存の団体については努力  
目標になるようなので理解できる。

##### （関東水域）

井上：拙速に女性の理事を40%にもっていくのは無理。女性の会員が少ない  
ので難しい。女性会員を増やすのが先との意見がある。

##### （中部水域）

岩瀬：東海では女性の活動が少ないので、女性の候補者の名前が挙がってい  
ない。

(九州・沖縄水域)

沼田：3月4日、5日に九州ヨット協議会が開催されるので、その場で検討する予定。

(3) 各委員会、各水域報告

・各水域の状況

(九州・沖縄水域)

沼田：九州水域は3月からクラブレースを始める。

玄海では3月に総会を行う。

(関西水域)

中村：外洋内海では会議が延期になって議論ができていないが、レースについては例年通りの予定。

船澤：西宮では予定通りに順調に進んでいる。関西ヨットクラブの事務局長が交代した。

(中部水域)

岩瀬：駿河湾では、夏に開催の駿河湾横断レースは中止にしたとのこと。

外洋東海ではコロナ前と同じようなスケジュールでレースを開始の予定。

年会費及びレース参加費を下げて拡大を望む。

(関東水域)

井上：3月のレースの準備が進んでいる。コロナ前と同様のレース数。

パーティー、表彰式等もリアルに開催するクラブもあるとのこと。

(北海道・東北水域)

石川：外洋北海道では、今年はシリーズレースを5レース、他に小樽カップ他2レースを予定。青森フリートではクラブレースを3レース、函館フリートではクラブレースを6レースと青函カップ他2レースを予定、浅虫温泉の前でレースを開催し、終了後にねぶた祭りを観戦するイベントを企画検討している。

外洋いわきではレースはまだ無理な状況。

・委員会からの報告

(レース マネージメント委員会外洋小委員会)

三浦：3月1日から年会費の更新となるが、レースオフィサーに会員の継続をお願いして頂きたい。

(ルール委員会外洋規則小委員会)

日下部：再来週のルール委員会が開催される。外洋ダブルス、小笠原レースを説明して委員で共有する。

セールナンバーの識別について委員会内で議論をする。

(外洋安全委員会)

平出：2月4日に外洋合同委員会を開催し、4時間議論した。来年は2月に福岡で開催予定。

OSRのアプリ化を検討し、SNSでヒヤリングを行っているが、アプリでなくても良いのではないかと、PDFで欲しい、との声があるのでPDFで複製ができない方法が考えられれば、アプリ作成への投資が抑えられるので、その方向での検討を考えている。

(外洋計測委員会)

川合：申し込み開始後2か月が経ち、IRC、ORC共に順調に受付している。

今日現在IRCの申し込みは154艇、証書の発行済が80艇となっている。

ORCの申し込みは30艇だが、証書の切換えが4月からなので、まだ発行されていない。

(通信委員会)

坂口：トラッキングシステムは、国内で使用できるのはトラック・トラックしかないが、フルノが一旦開発を中止したものを来年開発したいとの話があるので確認をする。

アイコムがトランシーバーをヨット業界で拡大したいとの意向があるようなので、ポートショーで話す機会を持つ予定。

船澤：Nスポーツトラッキングとう会社がトラッキングシステムを提供している。

中澤：東京オリンピックの時に江の島で使用した実績がある。

坂口：外洋では衛星波が必要になるが、確認を含めて話をさせて頂きたい。

#### (4) その他

鈴木祥子：ジェンダー平等はやらなければならないことでJSAFは進めているが、あまり積極的に取り組んでいるようには見えない。

普及を進めるための担当が外洋にあるのか疑問。

ヨットから一旦離れた女性を呼び戻す活動をしたらどうか。

ワールドセーリングでも、女性を増やすキャンペーンを年に2回行っている。このような活動に普及委員会やレースマネジメント委員会に協力して頂いたらどうか。

大村：外洋常任委員会に資料を送って頂きたい。

岩瀬：女性の会員が少ないのに、数合わせで女性の理事を増やさなければならないのか、現実には即した今の男性主体の役員で致し方ないとするのか、どちらが

優先なのか。

大村：外洋の世界は女性が少ないので、先ずそこから増やさないと役員候補がない。まずは底辺から女性を増やすべきと思う。

鈴木祥子：女性がJSAFの会員になるのにハードルが高い、役員になるには更にハードルが高い。まずは底辺から増やさなければ、先はないと考えるべき。

岩瀬：一般女性で外洋ヨットに乗る発想はないと思われるので、広報を考えないと底辺は広がらない。

船澤：全日本ミドルボートでは実施要項に、女性を1名乗せることを努力目標として入れた。

平出：女性を増やすために女性理事が必要なのではないか。

大村：この問題については今後も議論をしていきたい。

- ・大村常務より、明日の理事会の議題についての概要が説明された。  
最後に中村副会長の閉会の挨拶で19：15分に閉会となった。

以上